



TITLE:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 91

AUTHOR(S):

CITATION:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 91. 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 1960, 91: 81-86

ISSUE DATE:

1960-04-10

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186960>

RIGHT:

京都大学瀬戸臨海実験所振興會

水族館月報

No. 91

1960. 3月(4月10日)

録 事

本号をもって1959会計年度を終ることになる。

水族館は今月に入っても、更に入場者はふえる一方で、毎日平均2830名となり、この数字は本会発足の1952年度の1日最高記録と異数においては変りはないが、このような日が連続して毎日続くなど戦前の大学直営当時には思いもよらなかったことである。13日は4035名を数え、最高を記録した。したがって将来の水族館は観客通路を広くするばかりでなく、水槽も大型化し、数多くの水族を展示して、一々覗きこまなくてもすむようにしなければ、観客の激増にこたえることにならない。

南海岸の排水口が長年の間に海岸の砂を洗い去られて露出してきたので、もつと海側につき出した上、排水管周辺をコンクリートで埋設した。また、実験所正門北側の松並木の土手が次第にくずれてきたので、石垣を築き、金網柵をもうけた。

宮地会長及び生駒監事は月末に水族館改築折衝のため近畿財務局・文部省・大蔵省に出向した。

山路委員はかねてより考案中の独自の「自動式フランクton採集機」を大阪金属KK共の他の援助で一応試作品を完成した。この新採集機は高さ約50cm、直径約30cmビニール管、砲金等からなる重さ約12kgのもので、各種の計器がとりつけられ、水中ポンプにより自動的に回転盤がまわり、回転盤の孔の下にとりつけられた採集ネットに自動的に深度別のフランクtonが吸集されるしくみのもので、春の海洋学会年次大会で正式に発表される予定である。

布施委員は14~19日中ノ海干拓予備調査のため松江市に出向した。

UNESCO委託潮流調査担当の大阪学芸大学中村秋甫助教授は10日、補助学生5名を帯同して来所、換潮機を水族館海水取入口井戸に仮設して試験されたが、水族館への給水には影響は見られなかった由。

業 務 概 況

◎ 3月の入場者数

区 分	大 人		小 人		合 計		
	本月分計	累 計	本月分計	累 計	本月分計	累 計	
水族館発売	個人	11890	96578	796	7529	12686	104107
	団体	29833	178946	—	—	29833	178946
交通公社発売		13466	82171	—	—	13466	82171
明光バス発売		28121	230766	1028	7769	29147	238535
合 計		83310	588461	1822	15298	85132	603759
無 料						0	1026

団 体 : 一般 402組, 学生 36組 合計 438組

◎ 3月の事業収入

(今年度累計)

観光券売上金

窓 口 発 売	717,185	4,784,055
交通公社クーポン	215,184	1,272,450
明光バス観光券	875,092	4,484,345※

予金・積立金利子 131,796 569,182

雑 収 入 330,789 592,497

魚 類 拂 下 300 1,380

絵はがき拂 下 32,150 304,510

パンフレット拂下 13,820 22,070

合 計 2316,316 12,030,489

※ 明光バス観光券未収分 動植物共通大人券 6944枚

全 上 小人券 685枚

◎ 3月の支出

水族館経費

費 団	金 額	累 計	備 考
人 件 費	120,055	1,305,829	
会 議 費	25,705	117,569	常務委員へ手当
備 品 費	—	73,040	
消 耗 費	6,346	398,769	
事 業 費	56,812	597,160	
維 持 費	156,450	418,925	電線張替工事他
其 他 諸 費	7,479	583,479	
積 立 金	4069,400	5,957,183	34年度剰余金を 諸施設改修費へ繰入
合 計	4442,247	9,451,954	

実験所経費

費 目	金 額	累 計	備 考
研 究 費	—	145,813	
獎 学 金	—	12,000	
備 品 費	65,800	348,287	7・ラン7トン水中自動採集機
消 耗 費	—	—	
刊 行 費	451,670	946,821	高知生物報告 第11 Vol. 1, 2 印刷
役 務 費	34,075	95,630	実験所正門横石垣工事他
合 計	551,545	1,548,551	

博物館経費

費 目	金 額	累 計	備 考
人 件 費	35,830	479,184	
備 品 費	—	15,000	
消 耗 費	—	—	
役 務 費	25,940	27,800	コンプレッサー室仮設工事他
合 計	61,770	521,984	

支出合計

(今年度累計)

水族館経費	4,442,247	9,451,954
実験所経費	551,545	1,548,551
博物館経費	61,770	521,984
臨時費	—	508,000
合 計	5,055,562	12,030,489

◎ 3月末現在高

前月よりの繰越	2,739,246
今月の収入合計	2,316,316
今月の支出合計	5,055,562
現 在 高	0

◎ 前年度との比較

	1959	1960	増 減
入 場 者 数	63015	85132	+ 22117

水族館記事

- ◎ 今月に入ってひるま潮がよくひくようになるとともに、磯で稚魚や、無脊椎動物の種類が豊富に採れ、水槽内は繁茂した海藻をあしらって、昏らしく華やかな情景をみせている。

16日から月末にかけて、ムギイフシ、メジナ、カゴカキダイ、ギンエゴイの稚魚（いずれも体長1〜3cm）を数百個体採集して、NO.28の水槽で飼育している。

アメフラシ類では、アメフラシ、ジャノメアメフラシ、ミヤコウミウシ、アオウミウシ、クモカタウミウシ、クロシタナシウミウシ、ウミフクロウ、タツブミガイ等約10種、数十個体を数え、ウニ類ではオオアブラク、コシタカウニ、クロウニ等、エビ類ではヒメセミエビ、オトヒメエビ、ナマコ類ではムラサキクルマナマコ、テツイロナマコで、その他、イソギンチャク類、ニ枚貝類、ウミトサカ類、ウミシタ類など久しく入槽していない動物を多数採集して観覧水槽が不足してくる程になっている。

- ◎ 抱卵しているタカアシガニが例年よりおくれて29日入槽したのでNO.33水槽に収容した。今後、水温上昇にともなって、死亡することが考えられるので、氷片を入れて飼育することを考えている。
- ◎ タイマイは水槽の不足のために、NO.22水槽に移動させ、板で仕切って他のカメと一緒にならないようにしていたが、25日に泳ぎ出た一頭体が、給餌する際のエサの奪い合いからアカウミガメに頭部をかみくだかれて死亡した。
- ◎ 昨年9月7日に採集して越冬したクマノミは26日に遂に死亡した。給餌が不十分であったことが原因と考えられる。
- ◎ NO.28水槽に収容していたコウイカは、上旬にさかんに交尾をおこなって数十個の卵を海藻や造礁サンゴに生みつけたが、月末に至るまでに殆ど腐敗し、31日現在約十個残っている。
- ◎ 上旬に館内の各水槽にユウレイボヤが着生し、成長していることを見つけたので、NO.13水槽に集めて観覧に供している。
- ◎ 3月31日現在、観覧水槽に収容飼育中の動物は総計155種、2386個体以上で、その内訳は次の通り。

カイメン類	3種,	カフトカニ類	1種,	ヒトデ類	4種,
ヒドロ虫類	1種,	エビ類	8種,	クモヒトデ類	1種,
ウミトサカ類	3種,	ヤドカリ類	3種,	ウニ類	10種,
ヤギ類	4種,	カニ類	9種,	ナマコ類	6種,
イソギンチャク類	9種,	ニ枚貝類	4種,	ホヤ類	2種,
イシサンゴ類	12種,	巻貝類	7種,	軟骨魚類	7種,
スナギンチャク類	1種,	アメフラシ類	10種,	硬骨魚類	46種,
ハナギンチャク類	1種,	イカ類	1種,	カメ類	3種,
ホウキムシ類	1種,	タコ類	1種,		
多毛類	3種,	ウミシタ類	2種,		

博 物 館 記 事

- ◎ 最近の水族館の方に手をとられて手不足のため、公開していないが、その間にも珍奇な標本は入手の毎に保存して展示している
- 中でも特記すべきものは3月3日北海岸に打ち上げられた巨大なウツボ(種名不詳)で、長さ186cm、胴廻り21cmもある。
- 3月15日には四双島附近に設置されたエビ網にかかった兎爭なセンネンタイを漁師からもらいうけた。この魚は時々見うける熱帯系種で、この附近では珍しいものである。3月31日山本虎夫氏は黒地に黄色でふちどられたチョウチョウウオの珍種を串本で採集し寄贈された。
- ◎ 3月18日大阪市立自然科学博物館の柴田邦男学芸員は、当博物館で保管中の静岡零陵採集のトカラコレクションを全博物館に接収するために来所された。
- ◎ 博物館西北隅の裏入口を改造して、アクアラング及びコンプレッサーの仮置場とした。

資 料

- ◎ 3月の気象 (9時観測)
 南水槽室 (水温比重はN0.25水槽)

	上 旬	中 旬	下 旬
晴天日数 (日)	3	6	2
室 温 (°C)	$\frac{11.0 \sim 15.0}{13.4}$	$\frac{9.3 \sim 17.2}{12.5}$	$\frac{11.0 \sim 18.0}{14.3}$
水 温 (°C)	$\frac{14.38 \sim 16.40}{15.30}$	$\frac{13.03 \sim 16.44}{14.34}$	$\frac{14.21 \sim 15.72}{15.01}$
比 重 (0/5)	$\frac{25.69 \sim 25.93}{25.82}$	$\frac{25.65 \sim 25.96}{25.85}$	$\frac{25.26 \sim 25.71}{25.60}$

取入口

水 温 (°C)	$\frac{14.50 \sim 17.24}{15.43}$	$\frac{13.72 \sim 16.95}{14.91}$	$\frac{14.50 \sim 17.24}{15.43}$
比 重 (0/5)	$\frac{25.32 \sim 25.96}{25.80}$	$\frac{25.60 \sim 25.97}{25.87}$	$\frac{25.53 \sim 25.85}{25.78}$

来 訪 録

- 3月4日 朝日新聞社写真部青井竹二郎氏 (「科学朝日」誌のための水族館動物の撮影)
 3月7日 京大地球物理学教室福尾英昭氏 (田辺湾海洋調査データ記録)
 3月8日 京大技術課榎原第一課長補佐・西山敏夫事務官 (海水取入口災害復旧工事入札)
 3月12日 九州大学水産学教室吉田忠生氏 (流れ藻調査)

昭和35年4月10日 (NO 91)

編集兼
発行者

内 海 富 士 夫

発行所

瀬戸臨海実験所振興会
 和可山県 白浜町
 瀬戸臨海実験所内
 (Tel. 白浜温泉 515)